

月刊『全老連』

2020.5

北から南から

20年以上続く小学生との交流事業

青森県藤崎町老人クラブ連合会 ●クラブ数 41 ●会員数 1,341名

連合会では、20年以上前から小学校の依頼を受けて、地域の三つの小学校で授業の一環として、1年生に「昔の遊び」を教えて、そのお返しに、2年生が考えた遊びを老人クラブが体験するという交流を続けています。

2月に実施した常盤小学校では、67名の児童と校区内のクラブから会員22名が参加しました。始めに各種目のリーダーがみんなの前で遊び方について説明と模範演技を行った後、各コーナーに分かれて開始します。紹介する遊びは、ずぐり回し、けん玉、おはじき、お手玉、あやとり 紙遊びの6種目。「ずぐり回し」(津軽独特のコマ)は最初に縄を巻き付ける作業が難しく、会員にやってもう子が多くいましたが、勢い良くコマが回転すると、歓声をあげて喜んでいました。「おはじき」は分かりやすいので上達も早く、「あやとり」は昔の遊びが伝わっているようで、互いに取り合ったり、一人遊びを楽しんでいる子供もいました。新聞紙を利用した「紙遊び」は、兜を折ってかぶったり、紙飛行機で飛距離を競い大いに盛り上がりました。祖父母のいる家族や、保育園で体験したという子供は覚えが早かったようです



おはじき



紙遊び

が、失敗を重ねて成功したときは、格別に喜びが大きい様子でした。また、最近は担任の先生も年齢が若いので、昔の遊びを知らない人が多く、子どもたちといっしょに楽しんでいました。会の終わりに子供達の感想発表を聞き、いっしょに給食を頂いて終了しました。

子どもとのふれあいを楽しみに

連合会では、「昔の遊び」の他に毎月10日の「あいさつ運動」の日」に朝7時から町内十か所の通学路に立って子ども達に声かけをしたり、交通安全指導を行っています。小学生の中には、会員の顔を覚えていて声をかけてくれる子どももいます。近頃は、孫と同居している高齢者は少なく、みんな子どもたちとのふれあいを楽しみにしています。



全老連

2020.5 第475号

各地の活動から

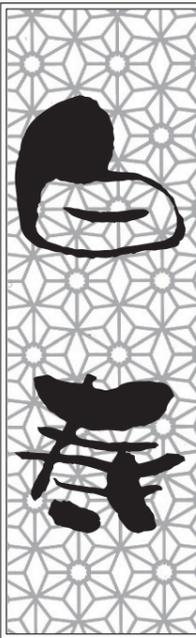
子どもを命を守る！
手作りマスク
1,500枚寄贈

鹿児島県 藤崎町老人クラブ連合会

島内でマスク不足が問題となっていたことから、「マスクを作って子ども達を守ってあげよう」と、町内全ての幼稚園(保育園)児と小学生に各クラブでマスクを作ることにしました。そして、この取り組みを応援しよう、役場が防災無線を使って広報してくれました。放送を聞いた住民の方々も協力してくださり、呼びかけから6日にして1,500枚の手作りマスクが集まりました。これらを福祉事務所の方々が全て消毒して、寄贈しやすいように大きさを分けてくれました。

こうして4月16日、屋久島市長(写真左端)にできなかった手作りマスクを寄贈しました。後日、マスクを受け取った幼稚園や学校からお礼の電話がひっきりなしにかかってきました。

Japan Federation of Senior Citizens' Clubs



「全老連」(全国老人クラブ連合会機関誌) 町老連の世代間交流事業 紹介される

全老連機関誌「全老連」5月号に町老連世代間交流事業【昔の遊び】が紹介されました。この事業は、平成16年の町村合併以前から行われ、小学校3校に行ってきたものです。

発行者

藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎町老人福祉センター内
電話 七五―三三三三

今回は、訪問先の常盤小学校1年生を対象に、今年の2月10日(月)に行った様子が写真入りで紹介されています。種目は、①ずぐり②けん玉③おはじき④お手玉⑤あやとり⑥紙遊びの6種目です。

子供たちは、初めて体験する子供たちや学童保育で経験した子供たちもあり、喜んで活動を楽しんでいました。遊び体験が終わった後は、恒例の指導した会員と学校関係者が一緒に学校給食を頂きました。町老連では、常盤小学校以外に藤崎中央小学校・藤崎小学校にも同様な活動を支援しています。指導した会員の方々は、子ども達の元気いっぱいの姿に感動していました。

老連会長杯グラウンド・ゴルフ大会のお知らせ

- 一、日時 8月22日(土)午前9時(小雨決行・雨天順延) ※午前8時45分迄に会場へ集合して下さい。
- 二、会場 子どもの森公園(藤崎町大字福島)
- 三、参加料 無料(申込不要) ※なたでも参加できます ※用具は主催者が用意して貸与します。
- 四、練習日 子どもの森公園(藤崎町大字福島)

指導された会員の皆様、誠にありがとうございました。

女性部体験コーナーのお知らせ

今回のテーマ「ペーパー・クラフトで手籠づくり」(厚紙テープを編み込んで籠を作ります。)

- 一、日時 8月22日(土) 10時～14時
- 二、場所 藤崎町老人福祉センター 集会室
- 三、講師 米村 初代氏
- 四、持参物 おしぼり
- 五、会費 三〇〇円(昼食代五〇〇円・材料費八〇〇円) 当日集金
- 六、締切日 8月9日(日) (材料等の準備のため厳守)
- 七、申込先 藤崎町常盤老人福祉センター 窓口

※新型コロナウイルス・ウィルス感染拡大により、日常生活が一変し、自粛や中止などを余儀なくされております。女性部では会員同士が以前と同様に活動出来るよう努力していきます。これからの行事にも、是非ご参加下さるようお待ちしております。



参考作品の数々

町老連 第二回理事会のお知らせ

- 単位老人クラブ会長・専門部長 各位
- 広報委員長・女性部長・若手委員長 各位
- 新型コロナウイルス・ウィルス感染拡大により第1回理事会は中止となりましたが、第2回理事会を開催します。
- 一、日時 9月5日(土) 午前10時
- 二、場所 藤崎町文化センター 多目的ホール
- 三、案件 ① 会員増強運動について ② 長寿顕彰・健老の集いについて ③ 町老連の今後の行事予定について ④ その他

長寿顕彰式・健老の集いのお知らせ

今年度の長寿顕彰式並びに健老の集いは、新型コロナウイルス・ウィルス感染拡大防止のため、規模を縮小して町主催の「長寿顕彰式」のみ開催となりました。町老連主催の「健老の集い」は中止して、長寿顕彰式には、老連からお祝いとして会員が出席することになりました。

- 一、日時 9月12日(土) 午前10時
- 二、会場 藤崎町文化センター 大ホール
- 三、受付 9時30分～10時
- 四、◎長寿顕彰式 10時～10時50分

最高長寿、白寿(99歳)、95歳、米寿(88歳)、ダイヤモンド婚(60周年)、金婚(50周年)

◎健老の集い 中止

五、お願い 単位クラブ会長・専門部長は出席者3名以上を同封の「長寿顕彰式 出席者申込書」に記入の上、8月28日(金)までに藤崎町常盤老人福祉センターに提出下さい。 ※送迎については、単位クラブ会長・専門部長に於いて、ご配慮くださるようお願いいたします。

中南郡老連からのお知らせ

7月10日(金)田舎館村川部ふるさとセンターで理事会を開催し、今期の行事等について検討した結果、「スポーツ交流会」(大鰐町老連主管)及び「中南郡老連 芸能発表会」(藤崎町老連主管)の行事は中止することに決定しました。

県老連からのお知らせ

「県老連 芸能発表大会」はコロナ・ウィルス感染拡大のため、今年度は中止します。なお、県知事・県老連会長表彰式は検討中であり、決まり次第、【白寿】等でお知らせします。

8月行事予定表			
日	曜	行事	時刻
1	土		
2	日		
3	月	役員会	10:00
		芸能部	12:00
4	火	囲碁・将棋部	12:30
5	水	茶道部	13:00
		菊花部	13:00
6	木	囲碁・将棋部	12:30
7	金		
8	土		
9	日		
10	月	山の日	
11	火	日本舞踊部	12:00
		囲碁・将棋部	12:30
12	水		
13	木	囲碁・将棋部	12:30
14	金		
15	土		
16	日		
17	月	芸能部	12:00
		日本舞踊部	12:00
18	火	囲碁・将棋部	12:30
19	水	菊花部	13:00
20	木	囲碁・将棋部	12:30
21	金		
22	土	老連杯グラウンドゴルフ大会	9:00
		女性部体験コーナー	10:00
23	日		
24	月	生け花部	10:30
		芸能部	12:00
		広報委員会	13:30
25	火	日本舞踊部	12:00
		囲碁・将棋部	12:30
26	水	茶道部	13:00
27	木	囲碁・将棋部	12:30
28	金		
29	土		
30	日		
31	月	芸能部	12:00
		【白寿】配布日	17時以降

先輩に学ぶ 旧藤崎町老連文集「白寿」から 第一号 昭和57年度 (三)

農にいそしみて

柏木堰 佐藤多次郎

顧みれば我が国は戦時・戦後を通して食糧難に遭い、政府はひたすらに増産を叫び、あの広大な八郎潟や十三潟の干拓、その他の開発に全力を傾倒して来た。供出米納納の農家には強制的に強権発動を行い、早場米供出には奨励金などを出し、超過供出した農家には毎年賞品・賞状等の授与があったので、私もその都度知事賞や町長賞などの授与の栄に浴したものであった。然し最近では以前と異なり、米の余る時代が到来したので、そのような催しが無くなったばかりか強制的に休耕や転作をしなければならぬ世と変わってしまった。休耕田には野菜などを植える人もあるが、水害を蒙るような低い田には何も植えずに捨てておく人もあり、草が茫茫と生い茂り誠に勿体ないような感じもするが、国内で米が余っている現在では、これもやむを得ないことであろう。

八年ばかり前、わが町で耕地整理を実施した際も、役場から一戸当たり五畝歩ずつ強制的に田を畑に変えるように要請されたが、だれも好まなかった。私が自主的に他の人の分も引き受け時代に即応し、一町歩を休耕田にした。一町歩を休耕すれば一年の米の収量は百余俵である。それを八九年ばかり犠牲にしたので、少なからず痛手を蒙ったものだった。

私はその休耕田を畑に変え、林檎と葡萄の苗を購入して植えたら、最近実も少しづつ成り始めて来たので、目下その成長を楽しみに期待している。然し、つくづく考えてみると、給料や物価が上がる一方なのに相反して、林檎や葡萄の値段が年毎に下がりがつあり、米価も依然として据え置き状態にあつて、全く矛盾しているような感じがする。のみならず天候を相手にしている農家にとっては、思いもよらぬ天災に遭遇することもある。

昭和五十四年の秋は、不幸にして激しい台風十五号に見舞われ、未熟林檎の落果甚だしく大被害を蒙り、その翌年、五十五年は真夏といえども蝉の声も聞かぬほど肌寒い冷夏に遇い、従って稲の不燃に収穫少なく、肥料代にもならないほどであった。その翌年五十六年もまた私も農家の期待も空しく天候不順のため稲は実らず、二年連続凶作に見舞われ、その上十一月六日突如二尺ほどの大雪になった。稲刈りのまだしない箇所も残っており、実の成っている矮化林檎がその下敷きとなったので、枝が裂け実も凍るなど見るも悲惨な天災に遭遇した。新聞の報ずるところによると明治二十二年以来九十五年ぶりの早雪と報道された。

昔、天明その他の連続の飢饉には死亡者が数多く続出したので、大きな穴を掘って幾十人もの餓死者をまとめ埋めた場所が四方八方にあつたと聞かされる。申すまでもなく現在は国内で米が余つて強制的に休耕を実施している時代なので、昔日のように悲惨な運命をたどるようなことは無いけれども、それにしても私共農家にとつては二年連続の凶作は大打撃であった。今年の秋は林檎は多少の台風被害はあつたが、稲には比較的影響が無かつたので不幸中の幸いだと思つてゐる。

妄言多謝

古老が語る 「物知りの記録」最終回

大字福館地区 古老14 79歳
平成4年1月9日収録

消防の名称 消防組↓警防団↓消防団へと名称が変わつた。

駐在所 現在は無いが、駐在所があつた。

服装 着物はもんぺ。履物は、下駄だった。被るものは、白い風呂敷・手拭いで、手甲脚絆は農作業の時は是非身に付けなければならなかつた。下着は、男はふんどし、女は腰巻きだった。

借子 借子は15〜20歳頃まで、1年契約で米10俵で雇われた。20歳以上で借子頭になると、年に12俵になる。借子は通年で住み込み、作業は何んでもやらなければならなかつた。

食事 食事は3日賄いと1週間賄いであつた。3日賄いととは、3日に1回魚を食べさせた。1週間賄いととは、1週間に1回魚が出た。夜の食事に魚が出された。普段は漬物で、マス、イワシ、タラ、ニシンを保存したものでしよっぱい物だった。

住居 家の中に戸・障子がなく、筵が下がっている。筵は特別に綺麗に編んだものを使つた。非常に便利であつた。今でも言われることがあるが、戸を開けた後、閉めない人を「かけむしろ育ち」と言う。家の中は板の間で、座敷には、襖・障子が付いてあつたが、台所や流し場には、戸・障子がなかつた。また、作業場があり、「にや」と言つた。

お風呂 お風呂は、もらい湯が多かつた。もらい湯とは隣近所で「今日、ゆこ」わがしてらはんで入りに来へ」と誘われたものだった。風呂のある家が少なく、5〜6軒に1軒位しか風呂が無かつた。風呂に入るのは1週間、あるいは10日に1回位である。殆ど親類同士である。また、近所付き合っている人、別家、借子などである。本家には風呂があつた。ドラム缶風呂もあつた。

お盆 今のお盆と違つたのは、仏壇の前に祭壇を作つた。それに「かじき」で作つた敷物を作つて敷いた。その上にハスの葉を敷いて、そしてお供え物をした。

ナスとキュウリに割箸で足を付けたものである。3日飾つておいて3日目の朝、それを供養して川へ流した。

迎え火 迎え火は、今は殆どしないが、昔はこの家でもやつたものだ。1週間「かぐち」(門口か?)に柴や藁を焚いた。先祖の霊魂を呼ぶためである。お盆は、亡くなった仏が霊の世界から我が家に帰つて来る時なので、迷わずに来られるようにと迎え火を焚いた。

正月 正月は、大正月と小正月があつた。ざんとし、と言つて1月の終わりに3日間お祝いをした。大正月は普通の正月で1週間、小正月は1月16日から1週間、それから1週間たつて、開けて「ざんとし」で3日間休む、これは全部1日暦(日めぐり暦のことか?)のことである。

正月行事 正月に「カパカパ」があつた。各家庭を回つて餅をもらつて歩く。たまに1銭玉、2銭玉のお金をくれた家もあつたが、なかなかくれる家はなかつた。袋を下げて行つた。「カパカパ」と言えば餅をくれた。

活動写真 1年に1回、小学校で活動写真(ナトコ16mm映画)があつたり、大きな家を利用しての人の活動写真は、漫画が人気であつた。面倒くさいものであれば分らないので飽きてしまつた。

結婚式 自宅で行い、祝儀は1円位であつたと思う。おみやげに持たせた「つと」は引き出物で菓でつくつたもので、納豆の「つと」の大きいものである。例えば折詰、今であればお膳に持ち帰りの引き出物、それを「折りっこ」に入れて、おみやげに持ち帰るが、昔は家に帰る時おみやげに菓で出来た「つと」に「汁もの」焼き魚、汁のこぼれないもの、ホッケなど、それを形を崩さないようにして、半紙に綺麗に並べて「つと」に入れてそれぞれに持たせる。折り箱などは使わなかつた。

葬式 結婚式と同じように「つと」を使つた。

遊び 冬は、ベンチャ、下駄に金を付けて滑つて遊ぶ。値段が高いベンチャになると前の方に爪皮を付けたものになる。「源平合戦」もあつた。赤旗と白旗に分かれて、雪合戦をやつた。

夏の遊びは、男はビダ打ち、女はアンコ(おはじき)、あやこ(お手玉)で遊んだ。

歯なしの話 101

「中間考察」 佐藤 透



馬とび(遊び図鑑)

コロナ・ウイルス肺炎が表沙汰になつてから数カ月がたつた。いろいろな所で困難にぶつかつてゐる。

五月場所は無観客試合で開催したが、今回、場所中に力士にも発病者が出てしまつた。更には、

若い力士が亡くなつてしまつたので、今後の開催が難しいこととなつた。

野球 プロの試合も五月現在で、未だ行われていない。六・七月ころから出来るかもしれない。

一方、高校野球の方は悲惨である。春の大会が健康のことを考慮して中止となつた。果たして夏はと思いきやどうも雲行きが怪しくなつてきたのである。病気の方の勢いが弱まらないと夏も中止かもしれない。まったく理不尽なことであり、学生さん達が可哀想である。その他、いろいろなもの中止の憂き目にあつてゐる。(ゴルフ・水泳・バスケットボール等々……)

教育 保育所をはじめ、小・中・高・大学に至るまで、感染の危険があるためにストップされている。

五月中旬にばちばち開始されてきているようであるが、数カ月の遅れは遺憾ともしがたい。遅れを取り戻すためにオンライン授業や九月を年度初めとする案などいろいろとアイデアを出されているようだが、初めてのことで、中々スムーズな受け入れが出来ない不確実である。

経済 飲食店やデパート・商店・観光施設、また製造業等多種にわたり休業となつたり、時間短縮やテレワークなどもあり、思つたような収入になつていないようであり、疾患が終息した後も影響が出そうである。

医療 人の恐怖というものは底知れないものだが、普段段何とも感じていない通院に、足が向かないのである。感染が怖いということが主な原因と思つたが、医療のサイドも私たち歯科同様に不要不急でなければ電話等で済ませて薬局に薬を取りに行く方向になつてきている。よつて医療関係者の収入が下がるわけで、これもまた経済的に大変な事態となつてゐる。

まだまだ困つてゐる種々の事柄があるが紙面に載せきれないので、今回はこの辺にしておきたい。どうぞ皆様困難にめげずに、感染の終息まで頑張りましょう。

川柳

壁掛けのポケットカラフル常備薬 佐々木トミエ

味つけはやはり姑に勝てぬ嫁 清水川魚

「無事だよ」と娘のメール安堵する 小笠原みなみ

先代の庭木を切つた孫の車庫 野呂文坊

一粒の種を後継ぐ子に託す 福井伝馬

ふるさとの訛りが仲間の合ことば 木村羊川